

ワイワイ語ろう！
私からの発信

2007/1/28(日) 13:30 ~ 16:00
ウィズ豊川視聴覚室

主催：豊川男女共生ネットみらい

後援：愛知県 愛知県教育委員会 豊川市

豊川市教育委員会 豊川市社会福祉協議会

参加： 34名(女性21名 男性13名)
10代4名 20代3名 30代1名
40代3名 50代12名 60代8名
70代3名

わたしの本音

男女共同参画というけれど...

1. 共通理解のための話



講師・コーディネーター
愛知大学 山本和子先生
豊川男女共同参画懇話会会長
豊川男女共生ネットみらいアドバイザー

1946年国連・女性の地位委員会の設置から今日までの、世界～日本～愛知県～豊川市の「男女共同参画」に関する動きをまとめた年表を使って全体の流れと問題点にふれた。

それは、20世紀後半、「人権」特に「女性や子ども、開発途上国」といった弱者の人権に注目して動き始め、21世紀も「人権確立」をめざした改革が続いていること。

日本の場合は「急速な少子高齢化」、つまり、このままでは労働力不足に陥り、年金の財源不足をはじめ経済が破綻しかねないという大問題をかかえている。

2. ビデオ視聴

女性専門外来の映像 「女性を一人前として扱わないという現実にかなり期待されて社会に送り込まれていった女性たちは、うまく対応しきれなかったり受け止めてもらえきれなくなっているんな不調になっている。」(医師)

東京労働局雇用均等室の映像 女性を戦力としてみなしていない実態
「妊娠をいい機会だと思い、退職を勧めた」(企業) 「女性社員は既婚者なので、仕事を辞めても困らないでしょう。」(企業)

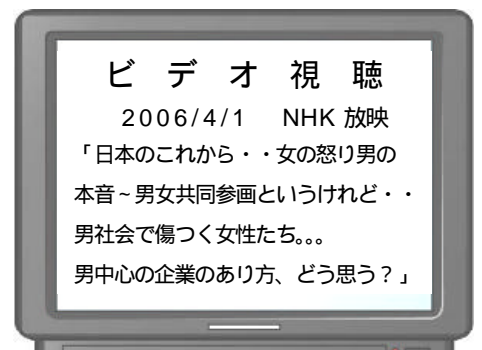
某社の人事担当役員の話の映像 「女性には、責任ある仕事は与えられない。総合職でも『出張はいけない』『晩の接待を断る』」

ある女性の話の映像 「一人前として認めてもらおうと積極的に残業や出張をした。その後、結婚出産。育児休業が終わるとすぐ職場に復帰。が、取引先から、時間的無理がきかないと不満をぶつけられた。見返さないといけないと仕事のミスはしないと頑張った。夫は出張が多く、家事育児はひとりでこなし。無理を重ねた結果、ストレス性の潰瘍や耳鳴りに悩まされた。」

会場討論の映像 (全国から男性25名女性25名 遥洋子(タレント・作家) 森田健作(俳優)

猪口邦子(少子化男女共同参画担当大臣(当時)) 倉田真由美(漫画家) 茂木賢三郎(キックマン会長)

- ・ 女性は入社してもいつ辞めてしまうかわからない。(男性) ・ 育児休暇があるから、女性の労働力が落ちる。(男性)
- ・ 女性が質的に劣るということはない。企業の使いかた次第だと思う。(女性)
- ・ 女性の地位を軽んじている経営者に限って、家事育児があるからと自分の奥さんを専業主婦にしている。(女性)
- ・ 簡単に仕事を辞めたり、結婚相手を探すために仕事をするという女性がいる。(女性)
- ・ 自分の生活を大事にせずに仕事一筋の人に、人間の暮らしに役立つものが造れるだろうか。(女性)
- ・ 定年退職した男性たちが、ざんげのように仕事をし過ぎたと言っている。(女性)
- ・ 女性が安心して子どもを産み職場復帰するには、男性の育児参加では生ぬるい。共同して子育てするという姿勢が、今の少子化の歯止めとなる。(男性)
- ・ 育児休業を終えて企業に参加することが、企業に多様性をもたらす。(女性)
- ・ 幼児が寝静まる時刻まで残業し、帰宅するともうくたくた。家事どころではない。(男性)
- ・ 男性のリストラ、ニートの原因は、女性の職場進出による男性の排除。(男性)
- ・ 女性社員の創造力は非常に強い。(スウェーデン男性)
- ・ 厳然とした男社会。子どもも仕事も欲しいというのは認められない。何か得ようとしたら何かを失わなければならない。制度が悪いと言うのはその時点で失格。(男性)
- ・ 働き、子どもを産み育て、自分のくらしもするというのが普通の人間。専念して働く人しか雇わない企業は長い目でみたら発展しないのでは。(女性)
- ・ 世の中を変えたい、社会を変えたいなら、女性の方が票数が多いのだから、変えればいい。女性は多い票を駆使したり、不買運動をすればいい。(男性)



- ・ はなから男性は女性をばかにしている。(女性)
- ・ 「女のくせに」と男性が言うのは、女性に負けそうになったから。(男性)
- ・ 日本の社会は会社採用の時点から女性蔑視をしている。女性総合職という単語、中国にはない。(中国女性)

3. グループでの話し合い

ワイワイ語ろう!

6グループ
ファシリテーター：大井 神谷 小山
杉浦 竹本 鳥山



- ・ 女は子どもを産めるが男はできないという違いを踏まえての役割分担、働き方の別があってもよい。(男性)
- ・ 生物的な性差はあるが、性別でくくる区別でなく、個人でみて平等にチャンスを与えられたい。(女性)
- ・ 昔より確かに女性も選べるようになった。がんばれば女性も認められつつあるが、がんばっていない男性が昇格していくのはなぜか。
- ・ 男子が弱く、生徒会は女子ばかり。先生から「みんな、女か!」と言われ嫌な気分になった。
- ・ このままの暮らしが居心地よい。
- ・ 弱い立場の者が、学校へ行けてないから、仕事をしていないから、“自立していない”とみられがちだが、本当にそうなのだろうか?
- ・ 『お金を稼ぐ人が偉い』という考えが根本にあるように思われるが、それが自立していることに繋がるのか?
- ・ 家事負担のある女性は、職場での進出の機会を逃してしまう。
- ・ 働き方に男性差別。(男性、残業ばかりで家族との時間がない。)
- ・ 男女共同参画社会に向けての解決策は「まず、自分自身の家庭から」
- ・ 商売を手伝い、家事もしていた祖母は「自分の時間がほしい」と言っていた。
- ・ 相手を選ぶとき、料理のできる人のポイントが高い。(10代女性)
- ・ 率先して家事を手伝うだんなを見つける。(10代女性)
- ・ 「手伝ってあげようか」と、言われればうれしい。(60代女性)
- ・ 男女共同参画教育について、国・県・市・企業が進めるべき。
- ・ 男中心の社会であることには間違いない。
- ・ 現代は女性の意識改革が速く進んでおり、男性は旧態依然。
- ・ 男女、お互いに人間尊重で取り組むべき。
- ・ 人間の幸せとは、一体なんだろうか。
- ・ 人間として何のために働くのか、そしてどんな暮らしがしたいのか。

4. 発表



- ・ 世代によって認識に大きな違いがあることがわかった。意外と若い人でも古い感覚の人がいると知って驚いた。
- ・ 人の意識を変えるより、具体的に社会を変えてほしい。
- ・ いろいろな年齢や異性の方との出会いと本音の話し合いで「自分のこれから」が見つけれそう。
- ・ ひとりの男・女として結婚していれば、こんなに苦しまずにすんだのかなあとも思う。
- ・ 男女共同参画をあまり意識せずに自然の対応でいきたい。
- ・ 自分は意外と保守的で変化することを怖がっていると気づいた。

5. まとめ



初対面のグループで討論するという「ワイワイ語ろう」も4回目になったが、今回は「みらい」の単独主催であり一歩踏み出した企画といえるだろう。準備段階で「誘導しない」姿勢を再確認しそれを貫いた。昨年、問題が露呈した「やらせ質問」「依頼質問」のタウンミーティングに対して、本当の市民討論の場を実現した点でも評価したい。

今朝、新聞に出ていた「女性は子どもを産む機械」という柳沢厚生労働大臣の人権を無視した発言は、基本部分に関わる大きな問題で、男女共同参画社会をめざす私達は、全ての面でもっともって人権に敏感でありたいと思う。

2月7日(水)10時から12時 市役所第4会議室 参加：生活活性課5名 子ども課2名 とよかわ子育てネット2名 みらい7名

1. 「とよかわ男女共同参画プラン」について

- ・ DVと児童虐待は子ども課で対応。(DVは児童虐待の一部)

豊川市要保護児童対策地域協議会設置(H18/4)・市役所内縦割り体制、是正努力必要・市民支援活動団体との連携、今後の課題。・市長との懇談会、1団体でなく数団体で10~20名ほどがよい。

2. 託児について 豊川男女共生ネットみらい「託児システム案」について討議

- ・ 託児ボランティアの意識調査をする(生活活性課)・ボランティア、有償か無償か・新児童相談センター・子育て支援センターの活用の可能性

3. 今後も継続して開催することを確認

